

NIIGATA Central park

～川が舞台、人が主役～



【コンセプト】セントラルパークをつくり2つのまちを1つのまちに

信濃川の河口に発展してきた新潟の中心市街地だが、左岸と右岸では歴史的な経緯が異なるだけでなく、近年は両岸ともに市街地と河岸の関係も希薄となっている。それにより新潟のまちはまとまりを持つことができないまま、まちの個性も失われてきてしまった。そのような中で新潟を一つにつなげてきた萬代橋の周辺を、新たに川の恵みを享受できるように親水公園として活用し「都心のセントラルパーク」として整備する。セントラルパークの整備により、りゅうとびあから朱鷺メッセ、みなとびあに到る信濃川沿岸に水辺のネットワークを形成するだけでなく、信濃川に向き合って成熟してきた新旧のまちを、セントラルパークを中心とした1つの魅力的なまちとして再生し、川を舞台とした市民の誇れる新潟ブランドをつくる。

■個性あふれる「縁凸」でまちと川をつなぐ

まち巡りの歩行者ネットワークと信濃川の結節点に、新たな水際拠点「縁凸」をつくる。兩岸の4つのまちの個性が、縁凸により川に引き出され、セントラルパークに表情を出すことで、昔からのまちと新しいまちが引き立てあう新潟らしい地域性豊かな都心が形成される。

また、縁凸を信濃川沿いに連担させることで、水辺のオープンスペースネットワークをつくり、信濃川軸を強化する。新たなオープンスペースは、川からまちなかへと水や緑が滲みだす場所となる。

■人が主役となり川を楽しむ

昔から橋は新潟のハレの場として様々な祭事の舞台となってきた。萬代橋や縁凸を中心として、四季折々人々が楽しめるようなイベントを行い、「川が舞台、人が主役」となる場づくりを行う。

縁凸やデッキ、浮棧橋などの様々な舞台装置により、市民や来街者などの多くの人々が「集う・巡る・憩う」ことができるようになり、セントラルパークを中心として、川と共に暮らす楽しみを味わうことができるまちとなる。



集う — 川や橋を舞台とした賑わい



巡る — 川沿いを散策できるデッキ



憩う — 水と緑のオープンスペース